

令和6年度 世田谷区立尾山台小学校 学校関係者評価 報告書

日頃より本校の教育活動につきましてご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、例年、児童・保護者・地域の皆様をお願いしております学校関係者評価アンケート、今年度の集計が終わり、その結果をもとに学校関係者評価委員会を開催いたしました。今年度も皆様のご協力に感謝いたします。昨年度から、保護者および地域アンケートが、Google Forms によるオンライン匿名回答が始まり、これが定着しつつあります。この点でもご協力にお礼を申し上げます。回収率は必ずしもそれまでの紙による回答には達しませんが、一昨年度、昨年度の結果とも照らし合わせますと、評価に大きな影響はないように思われます。この点でもご理解いただきたく存じます。

以下、評価委員会で分析・検討した結果とこれに基づく課題解決のための方策をまとめましたので、ご報告いたします。校長が交代して3年目になりますが、この3年間の評価が徐々に向上してきています。もちろん、全体的な評価の高さは維持されております。

この結果を踏まえ、さらなる教育活動の充実をめざした令和7年度の教育課程編成が、校長を中心とした全教職員・子どもたち・保護者・地域の＜チーム尾山台＞によって行われることを願っております。生き生きとした学校教育活動は、多くの保護者や地域の皆様からの温かい応援なくては成り立ちません。引き続き、尾山台小学校を「うちの学校・うちの子どもたちの居場所」ととらえ、ご協力とともに、さらなるご意見をお寄せくださるよう、お願い申し上げます。

1 用紙の配布と回収について

	保護者（児童数配布*1）	児童（3～6年生）	地 域
回収数／配布数	291／517	328／335	22／60
回収率	56.2%（66%） （ ）内は、前年度	97%（96%） （ ）内は、前年度	37%（40%） （ ）内は、前年度

*1) 保護者アンケートは児童数に合わせて各家庭に依頼

◆令和6年度 世田谷区立尾山台小学校学校関係者委員会
岩崎敬道 神谷順一 水田裕子 本間尊広 吉田直弘

2 令和6年度の学校評価について

- (1) 令和6年度学校経営方針の「教育目標」および「学校評価を踏まえた重点目標」（いずれも尾山台小学校HPを参照）に沿った評価

以下アンケートに表われた数字を挙げながら評価を述べる。アンケートは、(A) とてもそう思う、(B) 思う、(C) あまり思わない、(D) 思わない、(E) 分からないの5つの選択肢によって回答がなされており、以下ここでは、AとBとを合わせたものを「肯定的評価」、CとDとで「否定的評価」と記すことにする。

なお、児童アンケートは世田谷区において5、6年生においてのみ実施されているが、尾山台小学校では経年変化の分析のために、独自に3、4年生にもアンケートを実施している。この報告書における児童アンケートの数値は3～6年生の平均値である。

令和6年度学校経営方針

以下の「教育目標」の下、「重点目標」が掲げられている。(尾山台小学校HP参照)

教育目標

1. すすんで学ぶ子
2. あかるい心をもつ子
3. じょうぶな体をつくる子
4. なかよく力をあわせる子

重点目標

1. めあてをもって主体的に学習する子どもの育成
2. 集団活動の中で、自分のよさを発揮し、すすんで行動する子どもの育成
3. 自分を見つめ、運動に親しみ、自ら体力を高めていく子どもの育成

【重点目標①】 めあてをもって主体的に学習する子どもの育成

- このことに対応するアンケート項目として、
 - 評価項目1－(1)「学ぶことが楽しい。」肯定的評価90.1%
 - 同1－(2)「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」肯定的評価95.5%
 - 同1－(4)「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」肯定的評価97.9%
 - 本校独自項目7－(8)「先生たちは、わたしたちが「わかる」「できる」授業をしている。」肯定的評価88%

いずれも90%を超える数値もしくはそれに近い数値を示しており、授業において先生方が児童たちの学習に意識的にはたらきかけていることを、児童たちが受けとめていることがうかがえる。それは、独自項目7－(8)にも見て取ることができる。とりわけ、1－(1)「学ぶことが楽しい」が何よりもこれを象徴している。

また、保護者（３年生～６年生）の１－（１）の回答を見ると、８８％を超える数値を示し、保護者からの理解も十分得ていて、先生方への信頼度が高いことを感じ取ることができる。

- （保護者）評価項目１－（１）「子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。」肯定的評価８８．０％

【重点目標②】 集団活動の中で、自分のよさを発揮し、すすんで行動する子どもの育成

- このことに対応するアンケート項目として、
 - 本校独自項目７－（１）「わたしは、自分のよいところや得意なことがわかっている。」
肯定的評価９０．１％
 - 同７－（２）「わたしは、自分を大切にしている。」肯定的評価８６．８％
 - 同７－（３）「わたしは、相手を大切にしている。」肯定的評価９０．１％
 - 同７－（４）「わたしは、誰かに支えられていると思う。」肯定的評価９２．５％
 - 同７－（５）「わたしは、誰かを支えていると思う。」
肯定的評価６６．０％ 否定的評価１４．１％
 - 同７－（６）「わたしは、人との関わりの中で、自分がのびていると思う。」
肯定的評価８６．２％
 - 評価項目３－（１）「学校行事は楽しい。」肯定的評価９５．８％
 - 同３－（２）「学校行事は、達成感がある。」肯定的評価９１．９％
 - 同３－（３）「先生は、児童の意欲を大切にしている。」肯定的評価９１．６％

これらの項目においても、高い数値を示している。集団活動というと、学校行事を思い浮かべることが多い。もちろんこの点ではいずれも９０％を超えており、子どもたちの満足感が高い。これは、先生方がクラス・学年・学校全体の集団を見据えての取り組みの結果と思われる。とりわけ、７－（６）に見るように、子どもたち自身が人との関わりの中で成長できている実感を持っていることに注目したい。

併せて、独自項目７－（１）～（６）に対する子どもたちの評価に見られるような、集団の中における児童一人ひとりが自分を意識できるような取り組みに、指導のていねいさをうかがうことができる。

【重点項目③】 自分を見つめ、運動に親しみ、自ら体力を高めていく子どもの育成

- この項目に関しては、児童向けの評価項目および独自項目としては特に該当するものがない。しかし、直接かかわる項目として、保護者向けアンケートの中からこれを補う様な評価値を見出すことができる。
 - 保護者評価項目６－（５）「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」
肯定的評価７６％

この点から、保護者が自身の子どもの様子から、学校の取り組みをご理解されていることがわかる。また、この項目に直接関わる評価項目はないものの、その教育的はたらきかけとして、さまざまな学校行事に運動、体力を高める活動を見ることができる。その活動には、体育朝会であったり、けやき学級の体づくり運動、また縄跳び月間、エンジョイランニングなどの取り組みが挙げられる。これら行事に対する子どもたちの評価は、重点項目②でも見たように

- 評価項目 3－(1)「学校行事は楽しい。」肯定的評価 95.8%
- 同 3－(2)「学校行事は、達成感がある。」肯定的評価 91.9%

に示されている。

今回のこの結果から、評価項目の検討、とりわけ独自項目として教育目標・重点項目に対応するようなものを今後考慮していく必要を感じた。

(2) その他の項目の評価

- 年来の検討課題である子どもたちが読書を進んでできるようにするための試み、これに対する独自項目を今年度も置いたわけだが、その結果として、次のようにあらわれている。

- 児童独自項目 7-(7)「わたしは、本を読むことが好きだ。」

肯定的評価 76.3%

これに対して昨年度のものは、以下のようになっている。

- (昨年度) 児童独自項目 7-(7)「わたしは、本を読むことが好きです」

肯定的評価 65.5%

明らかに子どもたちの本に対する関心が高まっている。保護者からの評価を昨年度と比較して見ても、昨年度の評価値に比べ、

- (今年度) 本校独自項目 10－(7)「子どもは、本を読むことが好きだ。」

肯定的評価 61.5%

- (昨年度) 保護者独自項目 12-(7)「子どもは、本を読むことが好きである」

肯定的評価 59.4%

となっており、保護者から見てもわずかながらも向上していると評価されている。今年度の先生方の読書指導の成果だろう。

昨年度の評価報告書にも記したが、児童たちを取り巻く環境としてゲームやスマホなどのメディアがたやすく手に入るようになっているにもかかわらず、子どもたちを活字へと取り戻す教育活動が活きているように思える。文化遺産の継承の基礎は活字、本に象徴されるので、子どもたちのさらなる本への回帰を期待したい。

- 最近、災害や犯罪に対する心配があふれるような状況になっている。学校が子どもたちの居場所として安心、安全に過ごせる場かどうかが問われるところである。このことに関する子どもたち・保護者・地域の評価は、以下に見るように高いものになっている。これは先生方とともに、地域の方々の協力にもよるものだろう。
- (児童) 本校独自項目 7－(10)「学校は、安心、安全に過ごせる場所だと思う。」

肯定的評価 92.2%

- (保護者) 本校独自項目 10 - (10) 「学校は、安心、安全に過ごせる場所だと思う。」

肯定的評価 87.9%

- (地域) 評価項目 1 - (4) 「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」

肯定的評価 96%

3 評価のまとめ

アンケートの結果として例年同様全般的に見て評価が高く、学校経営方針に基づく運営の目標は概ね達成されており、学校経営全体として大きな問題はないと言える。毎年新任教員が赴任して来たり、ベテラン教員が異動する中でも高い教育レベルが維持されており、これは尾山台小学校の一つの伝統になっていることがうかがえる。

本文で紹介したように、多くの子どもたちが学校生活を楽しいと感じ、また先生への信頼も高いことから、彼らにとって学校という存在がとても大事になっている。もちろんこのアンケート結果に必ずしも現れない子どもたち一人ひとりの努力と先生方の細やかな個別対応、そして各家庭の支えが大きく、その結果とも考えられる。先生方、保護者の方々の労への感謝とともに、子どもたちにエールを送りたい。

子どもたち、保護者に比べて、地域の方々にはまだまだ学校における教育活動が見えにくい部分がある可能性もあるだろう。それでも地域の方々からの直接の声をうかがうと、積極的関心をもって関わってくださっていることが分かる。

令和7年度も、「かしこく・なかよく・げんきよく・すこやかに」学ぶ子どもたちが育つ「安心・安全な学校」づくりがさらに進められ、「笑顔いっぱい！ 元気いっぱい！」な子どもたちの成長を、保護者も地域も温かく見守りつつ、喜びあう学校経営が積極的に進められることを願う。働き方改革が求められる昨今であるが、先生方が「わかる授業 できる授業」実施のために力を注いでおられることも大いに評価されるべきであろう。先生方が多忙な中であっても、一人ひとりの子どものニーズに応じた教育のために、ひきつづき、一人ひとりの子どもたちと関わる時間を、なるべく多く取ることができる学校経営をお願いしたい。